

平成19年(2007年)能登半島地震による大阪市立大学構内5階建RC構造物で観測された地震動とひずみ

Observed data of seismograms and strain at a five - storeyed RC building at Osaka City Univ. by the 2007 Noto Hanto Earthquake

根本 泰雄 [1]; 角掛 久雄 [2]; 石丸 和宏 [3]; 中川 修治 [4]; 納谷 健一 [4]; 高田 直俊 [5]; 園田 恵一郎 [2]; 中川 康一 [6]
Hiroo Nemoto[1]; Hisao Tsunokake[2]; Kazuhiro Ishimaru[3]; Syu'uji Nakagawa[4]; Ken'ichi Naya[4]; Naotoshi Takada[5]; Kei'ichiro Sonoda[2]; Koichi Nakagawa[6]

[1] 桜美林大 LA 学群基礎数理; [2] 阪市大院・工; [3] 明石高専都市システム工学科; [4] シグマ ガル; [5] ネイチャーおおさか; [6] 大阪市大・院・理

[1] Obirin Univ.; [2] Grad. Sch. of Eng., Osaka City Univ.; [3] Civil, ACT; [4] sigma gal; [5] Nature Conservation Society of Osaka; [6] Graduate School of Sci., Osaka City Univ.

大阪市立大学にある5階建てRC構造物において地震観測を実施している。地震計を1階と5階とに設置しているだけでなく、1階RC柱部にひずみセンサーを埋め込み、地震時の本建屋柱部におけるひずみ観測も実施している。

これまでも大阪周辺で発生した地震による地震波形記録は録れていたものの、本RC柱部のひずみが観測されたことは無かった。平成19年(2007年)能登半島地震にて初めて地震記録とあわせて本柱部のひずみが記録された。観測地点における地盤との関係を含め、地震動と本RC柱部におけるひずみとの関係について報告する。